

# 児童発達支援自己評価表

公表:2022年度

事業所名:児童発達支援センターぷれっじ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点/課題点
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		
	2	職員の配置数は適切である	○		
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・個人マークを取り入れたり、スケジュールボードには、1日の流れを写真で提示したりと目で見て分かりやすい形としている
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・毎日、子どもが降園後の掃除やおもちゃ類の消毒を行い、定期的にクラス内の環境整備を行っている
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		会議内でのミニ研修、事業所全体の定期的な研修、法人が行う研修、その他、外部での研修や、資格取得研修の補助制度などで、資質向上を進めている
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・各クラスの会議でアセスメント内容を検討し、ニーズを整理して計画を立案している
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		

13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・毎日の振り返りで支援の進捗を確認し、記録に残している
14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・活動内容の詳細はクラスで検討しながら進めている
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		同じ活動でも、発達段階に応じて内容を調整するよう心掛けている
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	○		・クラスをグループに分けて活動するなど、集団と個別の場面に合わせた支援を行っている
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・送迎などで全員集まるとの確認が行えない場合、打ち合わせ内容を書面で周知伝達するなど工夫をしている
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・各クラスでファイルを作成し情報を落とし込むことで、情報の共有を行っている。また、夕方の振り返りの時間の全クラスで共有している ・困り感や課題も併せて書面で共有を行っている
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・記録用紙に児童発達支援計画の目標を記載し、それに基づいて記入を行っている
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援していない)
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			(同上)
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		コロナ禍においては、顔を合わせての連携が難しかった時期もあった
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・保育園と交流保育を行い、ふれあいの機会を設けている ・交流保育を実施している
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・連絡帳や電話などを通して様子の共有を行っている ・連絡帳の記入は行っているが、共通とはなっていない。ふれっじで来てもらう日を決める
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		専門職配置の日に、ご家族に来所してもらい、直接の支援の様子や相談を受けている
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・連絡帳や電話連絡などを活用しながら情報収集を行い、保護者と日々様子の共有や困り感についてやり取りを行っている
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・園児には写真カードを用いて視覚提示を行っている。 ・保護者へは、お知らせ等の他に、連絡帳に記載する際には、ペンの色を変えたり枠で囲むなどの工夫を行っている
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		より具体的な被災状況のバリエーションを想定して、対応策など検討していきたい
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・事前に保護者から頂いた情報を基に医務と共有を行い、発作が確認された際には、記録用紙にしたがって状況や状態を医務、管理職と共有し保護者へ電話連絡を行っている
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・日々の振り返りで、原因、対策を共有し、記録して、素早く共有するように努めている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		事業ごと、事業所ごと、法人全体で検討し、意識高めるための会議や研修を実施している
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		